

土曜の夜はパラダイス（佐々木典子）

いまや懐かしい「オレたちひょうきん族」エンディングテーマ。時は流れて、ビートたけしは今や「世界のキタノ」になってしまいましたね。EP0の作曲センスにはサウンド志向のアレンジャーを惹きつけるものがあるらしく、私たちのグループでも「私について」「Down Town」などを歌ってきました。なかでも、このアレンジは出色の出来のひとつと自負しています。原曲とはかけ離れたリズム・アレンジと、チャームなTopさすけの演唱(?)をお楽しみください。



4th:潤哉
隠れ上手 / 目立ちたがりの
二重人格バリトン

夏の終わりのハーモニー（佐々木典子）

男声のハモリ曲があってもいいねえ、と佐々木夫妻で雑談していたら、ある日突然出来ていたアレンジ。初演はまだ夏の気配を残す時期のストリート・ライブで、なかなか良い気分でした。井上陽水と、今は懐かしい安全地帯の玉置浩二のデュエット・チューン。といいつつ、今やカラオケの定番ハモリレパートリー、と言ったほうが通りがいいかも知れません。次はアリスか狩人か?(笑)

ペンギンフィッシュのテーマ（佐々木典子&潤哉）

私たちが活動を始めた2001年のクリスマスには「青山こどもの城」で歌う機会をいただいたり、強行したストリート・ライブなど、良い思い出がいくつもありました。中でも、このテーマソングをプレゼントしてもらった(正しくは、その約束をとりつけた)ことは、忘れられません。酔った勢いに乗じてのお願いでしたが、素敵な曲を贈ってくれた、すうじい&ぎだサンタに感謝。

魔法の黄色い靴（松永ちづる）

「すみれの花咲く頃」を松永ちづるさんに書いていただいた時、もう1曲ベースパートのリード曲を... とお願いした曲だとか。でも、この音域ではベースには歌えないんじゃないでしょうか。ペンギンでは3rd 誠が軽々と歌ってくれています。チューリップの知る人ぞ知るデビュー曲で、当時「ロックのビートに見事に日本語を乗せた例」として話題になったとか。1曲の中で転調を繰り返す斬新な曲調は、とても30年以上前の曲とは思えません。アレンジも、ほぼ原曲のコード進行を踏まえたものになっています。



Bass:ゆたか
決して隠れない主張の強いベース

岬めぐり（松永ちづる）

去年の秋ぐらいからよく歌うようになった曲で、これもトライトーン楽譜集から。...彼らがあまり演奏しないものばかりなのは、工夫というか、穴狙いというか。メジャー・コードの軽快な曲に哀しい歌詞は、60~70年代フォークの得意技という感じがしますが、この恋人も、生き別れなのか死に別れなのかで、ずいぶん重さが違ってきますね。4th潤哉が年齢を微妙に反映した味わいを出そうと奮闘しております。山本コウタローとか、ウィークエンドとか、ご存じないかたも多いんでしょうね...

ごあいさつ

どうも皆様こんばんは。“ペンギンフィッシュ”です。本日は「新装開店ライブ」に足をお運びいただきありがとうございます。

私たちは2001年から活動を始めたグループです。個性があって素敵な歌を、耳に心地よいサウンドで包みたい... そんなスタイルが見えてくるまでに1年以上かかり、気がつけばレパートリーのほとんどが日本語になっていました。言葉とハーモニー、そこから伝わるものにこだわる気持ちが、私たちを今のかたちにしてくれたのかなあ、と思う今日この頃です。

今年になって二人のメンバーがそれぞれの事情で脱退し、この6月から現メンバーでの活動が始まりました。レパートリーの傾向が少し変わり、ハーモニーの安定度が少し増し、グループとしてのパレットが少し増えました。現在のレパートリーは13曲。今日はこの中から7曲を歌います。...実のところ演奏というよりも、この「多作」という素敵な場所に、皆さんと一緒に身を委ねられたら、という気持ちではありますが。

思いに比べてまだまだ未熟な私たちですが、声のハーモニーが作り出す一期一会の空気を共に楽しんでいただければ、この上ない喜びです。

斉藤葉子 / 佐々木典子 / 市川誠 / 佐々木潤哉 / 齊藤穰

Web: <http://homepage2.nifty.com/penguinfish/>

Mail: penguinfish@egroups.co.jp



ご一緒するグループのこと

コットンズ

彼らのデビュー・ストリート・ライブをご一緒して以来、何かと節目でご縁のあるグループ。エンタテインメント性の高いホットなステージングを展開するコットンズが「動」ならば、さながら水中のようなステージ(笑)のペンギンは「静」。まるで対照的といったいいグループ同士なのですが、なぜか気になる同士でもあるのです。

彼らのメンバー交替時期も我々と同じ頃で、新メンバー“やすぴー”登場！の際にはペンギンフィッシュ全員で居合わせましたし、新生コットンズの再デビュー・ストリート・ライブも一緒にさせていただきました。もはや芸というより人間離れと言いたいやすぴーの高音も素晴らしいですが、カラオケ道を究めたメンバーのヴォーカルとサービス精神こそが、このグループの強さを支えています。

むらさきのうえ

プロとして活躍中のグループです。ペンギンとしての共演はもちろん始めてですが、実はいろいろと浅からぬご縁があるグループであることが判ってきました。

私たちは縁あって今年のクリスマスに「成田ゆめ牧場」でクリスマス・ライブをやらせていただくことになったのですが、以前の出演グループの名前になんと「むらさきのうえ」の名前が！...これって、勝手に親近感を覚えているだけなんですけれど。

また、彼らの母体でもある、タイム・ファイブが主催するジャズ・コーラス・スクール「ハーモニー・スクエア」は、4th潤哉が企画立案に関わっていたとかいう、ホントのようなウソのような話もあります。これも、彼が勝手に言っているだけですけれど...

ともあれ、ハーモニーを重視したコーラス・ワークが定評だけに、今宵の出会いをとても楽しみにしている私たちです。

全レパートリー（五十音順：カッコ内はアレンジャー）

君は薔薇より美しい（佐々木典子）

最新のアレンジ。布施明1979年のヒット曲で、資生堂春のキャンペーン・ソング。当時ゴダイゴのミッキー吉野が作曲を担当し、斬新なコード進行が評判でした。ペンギンフィッシュ版は、布施明が昨年リリースした『Do My Best』というアルバムのバージョンが元になっています。余談ながらこのアルバム、50代も半ばを過ぎてこの美声、とびっくりすること間違いなし。



Top: さすけ
透明で軽やかなハイ・ソプラノ

恋のアメリカン・フットボール（佐々木典子）

なぜか、ときどき微妙に流行る不思議な曲「学園天国」。歌っていたのは、日本でのキッズ・グループのはしり「フィンガー5」でした。実は沖縄発の彼らは、後の SPEED の大先輩、ということにもなるでしょうか。この曲は、比較的後期のヒット曲で、メロディの良さが魅力であります。ちなみに、私たちの男声メンバーは、フィンガー5の最年少だった妙子ちゃんと同世代だったりして。

このばしょ（篠崎勉）

私たちの第1期メンバー、常岡瑞枝（現在、アメリカで修行中）が、2nd典子と4th潤哉の結婚を祝って贈ってくれたオリジナル曲です。といいつつ、贈られたほうは全然それに気がついていなかったのですが...。優しいメロディと言葉を、篠崎勉さんが素敵なお・カペラに仕上げてくださいました。私たちのグループのカラーに合っていると言われることが多い曲でもあります。



2nd: だん

女声ならぬ「だん声」の低音アルト

Seagull（飯塚真司）

都内で活動するアカペラ・グループ Tanto Guts の飯塚さんが、2nd典子の歌声にインスピレーションを得て（？）16年間眠っていたアレンジを仕上げてくれたのだとか。谷山浩子さんの『たんぼばサラダ』に収録されているアルバム曲ですが、ファンの間では評価の高い佳品のようです。不思議なムードの原曲に、人声の柔らかさが、独特の雰囲気を加えています。

すみれの花咲く頃（松永ちづる）

4th潤哉が、合唱団の団内ア・カペラ・ユニット「つくつくぼーし」で活動していたころ、つてを頼ってトライトーンの松永ちづるさんをお願いして（！）書いてもらったという貴重なアレンジ。宝塚でおなじみのこの曲は、「つくつく」のトップ嬢が宝塚ファンだったことからアカペラ化が決まったのだとか。歌っていると、とてもアカペラに向けた曲だなと思います。

青春の影（松永ちづる）

松永ちづるさんに「すみれ～」と「魔法の～」をお願いしたときに「おまけ」として付いてきた曲です。ちづるさん曰く「チューリップのアルバムを聞いてたら、なんとなく書いてしまった」とか。この曲を加えた3曲を、関係者の中では「松永3部作」と勝手に呼ばせていただいています。シンプルにして要を得たアレンジは、3rd誠にとってはこの上なく美味しい一品。



3rd: 誠

2ndを追い越し朗々と響くテナー

小さな恋のうた（佐々木典子）

素晴らしいピアノ弾き語り手、沢知恵さんが、この曲をスロー・バラードで歌ったものがとても良かったので、彼女のバージョンをヒントにしてア・カペラ・アレンジをしました。良いものは評判になるようで、その後パファリンのCMでも使われるようになりました。MONGOL 800の原曲を知っている人はびっくり、知らない人はしんみり？ 2nd典子の低音がおいしい味を出しています。

竹田の子守唄（松永ちづる）

グループを始めたころは市販の楽譜を歌っていましたが、声域の関係などからなかなか仕上げが難しくて、最近はバンドに合わせたものを作るようになりました。この曲は珍しくトライトーンのレパートリーを集めた楽譜からのものですが、本家本元はあまり演奏していないようです。低音リードの曲で何かいいものを、と考えて歌ってみたところ、なかなかいい感じだったのでレパ採用となりました。元は京都の民謡ですが、フォーク・グループ「赤い鳥」が歌って広く知られるように。最近では花＊花などがコピーしています。